

岡山大学同窓会総会議事要旨

日 時：平成24年10月20日（土）10時30分～11時35分

場 所：岡山大学創立50周年記念館 金光ホール

出席者数：約200人

議事に先立ち、小長会長から、岡山、東京を始め、各地からお集まりいただいたことに対する感謝の意が述べられ、また、本日の総会では、通常の議題の他に、同窓会の再編の問題について、皆様の御意見を伺いたい旨の提案があった。

続いて、大学間競争が大変厳しくなっている中で、学部、学科を越え、卒業生を含めた大学の総合力が大学を評価する基準になろうとしている。

第一点として、我が大学は、11学部を備えた総合大学で、旧帝国大学に次ぐ位置にあるが、油断しているとその地位が下がらないとも限らないことから、この際、同窓会を強化して大学との一体感を増していきたい。

第二点として、グローバル人材養成の観点から、中国、韓国、ベトナム等で具体的な提携或いは留学生を迎えることが進んでおり、また、私が、サウジアラビア大使館や大使と親しくしている関係から、岡山大学にサウジアラビアから二人の留学生を受け入れていただいたことなどが、グローバル人材育成の種となることから、積極的に進めていく必要がある。

第三点として、岡山大学の公務員試験の合格者数は、かなりいい位置を占めているが、その人達が必ずしも適材適所という立場ではないと思っており、在学生、卒業生、大学が一体となって就職支援を円滑に進めていきたい。

このような問題点を含めて、この際、同窓会の再編の端緒を作って行きたいので、後ほどの議論に御参加を賜りたい旨の挨拶があった。

【第一部】

1 審議事項

(1) 同窓会役員等の交替

小長議長の指名により、同窓会事務室から、資料1「岡山大学同窓会役員・顧問名簿（案）」に基づき説明があり、審議の結果、理事1名及び顧問1名の交替が提案のとおり承認された。

(2) 平成23事業年度活動報告

小長議長の指名により、同窓会事務室から、資料2「平成23事業年度活動報告」に基づき報告があり、審議の結果、活動報告が承認された。

(3) 平成23事業年度会計報告及び監査報告

小長議長の指名により、同窓会事務室から、資料3「平成23業年度岡山大学同窓会会計報告」及び「監査報告書」に基づき報告があり、審議の結果、報告のとおり承認された。

(4) 平成24事業年度事業計画

小長議長の指名により、同窓会事務室から、資料4「平成24事業年度事業計画(案)」及び「平成24事業年度岡山大学同窓会収支予算(案)」に基づき説明があり、審議の結果、事業計画及び収支予算が、提案のとおり承認された。

2 その他

(1) 岡山大学21夢基金の状況

小長議長の指名により、岡山大学総務・企画部高月企画・広報課長から、9月末日現在の基金への寄附状況の報告と一層の理解と支援について協力依頼があった。

(2) 岡山大学からの情報発信等サービスのお知らせ

小長議長の指名により、岡山大学総務・企画部高月企画・広報課長から、岡山大学公式フェイスブックページ及びGmailアドレスへの登録について案内があった。

(3) その他

小長議長から、特に用意していない旨の案内があった。

【第二部】

審議事項 岡山大学同窓会の再編について

小長議長の指名により、荒木顧問から、資料「岡山大学 Alumni (全学同窓会) 設立趣意書」及び「岡山大学 Alumni (全学同窓会) 組織図(案)」に基づき、詳細な設立趣意、組織図、会員の定義、会費(終身会費1万円)等に関する説明があった。

続いて、小長議長から、7月6日及び9月29日に臨時役員会を開催した経緯と各学部同窓会等からの要請に基づき、荒木顧問が個別に説明会に臨んだこと及び10月19日開催の役員会において行われた、種々の議論の内容について説明があり、その結果、総会への議題提案が認められたこと並びに本総会に

は、同窓会会員の他、岡山大学教職員の参加を呼びかけた旨の説明があった。

次に、小長議長から、参加者に対し意見・感想・提言が求められ、種々意見交換の後、全員の理解と支援の下で、趣意書の方角で「岡山大学 Alumni（全学同窓会）」の平成25年10月設立に向け、岡山大学同窓会役員会を「岡山大学 Alumni（全学同窓会）設立準備会」と名称変更し、検討していくことが承認された。

最後に、小長議長から、円滑な議事進行の協力に対する謝辞が述べられた。

【意見交換の内容】

（昭和51年法文学部卒業生 男性）

基本的な趣旨について賛同いたします。

アメリカ、アジア各国の大学の激変振りには驚いており、大学の国際間競争が激烈になってきていると感じています。

具体的に感じていることを3点申し上げます。

一番目は、他大学の学部を卒業して岡山大学の大学院を修了した人や第二部を卒業した人がOB会に入りづらい、場所がないと感じているが、この提案は有益ではないかと思えます。

二番目は、どこの大学でも30代、40代のOBを巻き込めない状況であるが、東京で去年と今年、医学部、工学部、法文経学部の同窓会が合同でイベントを行った結果、そこに参加した30代、40代の人達が、たくさんのOBと会えて非常に活性化した、モチベーションが上がったと感じました。

三番目は、我々のビジネスがどんどんアジアに展開しており、ハノイに行くと、岡山大学に留学していた人からコンタクトがあるが、現状の学部同窓会の枠組みだけでは少数となるので、全学的な仕組みがあるとアジアの主要都市のOBの諸君も喜ぶのではないか。

そういった観点から、提案に賛成します。

（小長議長）

二番目と三番目は、全く同感ですが、一番目はどうなっているのでしょうか。

（荒木顧問）

これは、様々な実情があり、各学部同窓会でまちまちになっております。

基本的には、大学院生も学部同窓会の延長であります。学部同窓会によっては会員であったりなかったりしております。

今後、これらを解消して全学同窓会に取り込んでいきたいと思っております。

（平成5年法学部卒業生 男性）

全学同窓会の趣旨には、賛同しております。

各学部同窓会と補完関係にあること、できるだけ多くの同窓生が集まる機会を作ることは、いいことだと思います。

加えて、公認サークル OB 会の切り口でも取り入れてもらえるように検討いただきたい。

役員会で役員を決めるのは、組織上如何なものか、公開の場で役員を選任してはどうか。

(荒木顧問)

校友会関係の結束は、強いものがあり、それを生かしたいと思っている。

役員選任の件については、その名称を含めて検討させていただきます。

(留学生同窓会役員 女性)

趣旨について賛同いたします。

昨年10月に留学生同窓会が発足し、44カ国、3,400人ほどの同窓生がおり、本日、海外の支部の代表者にも参加していただき、ありがたいと思っています。

この一年間で、上海、韓国、長春、ベトナム、台湾、東京の6カ所に支部が設置されました。また、北京、大連、バングラデシュの支部設立も近い状況です。

森田学長から、5年間で50カ所の支部設立の方針が示されまして、アジアに拡大すると共に欧米にも拡大していく必要があります。

先程、森田学長から各支部長に感謝状が贈られ、今後のより活発な活動のきっかけになればと思っております。

今後の同窓会のあり方として、世界の一流大学では、同窓会の活動が活発で、それぞれ母校を支える大きな役割を果たしています。

我々留学生同窓会もそれを目指して大学に貢献したいと、切なる気持ちでございます。

今後、会員名簿の作成、ニュースレターの発行、ホームページの作成を通じて各国留学生との連携を取っていき、同時に後輩へのバックアップをしていきたい。

これからも「Okayama University Alumni Association」として、海外に居住している卒業生、修了生に日本からも参加していただき、活発な活動を期待しております。

最後に、多くの人の参加と関係者の御支援をお願いいたします。

(小長議長)

留学生同窓会の活動状況の御報告や全学同窓会に対する御要望に我々も力を得ました。我々もそれに沿った努力をまいります。

(教員 A 男性)

研究生，ポスドク，研究員であった方々の多くが世界で活躍しておられますが，岡山大学の知の活動に関わった全ての人として，構成員に入ってくるものと思われませんが，どう考えておられますか。

(荒木顧問)

当然入っていただく事になると考えております。

ただ，会費をどのようにするか，また，継続的なネットワークをどうするか難しい問題がありますので，検討していきます。

また，そのように世界で活躍している人達が孤立せず，大学と常に繋がって研究，教育ができるようにすることが焦眉の課題と思っております。

世界の大学のホームページを見ると同窓会のホームページの中にスポーツネットワークとかポスドクネットワークなどが整備されているので，今後，重視していきたい。

(昭和57年度大学院修了生 女性)

大学院の修了ということで，入りづらいことがありましたが，お話を伺い安心しました。

また，役員の方々の中に，女性が入りづらいことがありますので，女性が多く入られることを希望します。

これからの事業として，ハード面ではなく，ソフト面を進めると聞いて安心しました。

趣意書にある1から4までの具体的なコンテンツが決まれば，新しい全学同窓会の事業として実施していただくことを希望しております。

新しい全学同窓会ができることを喜んで賛成させていただきます。

(小長議長)

前向きな御提案をいただき，ありがとうございました。

女性の活用につきましても進めていきたいと思っております。

(教員 B 男性)

新しい取り組みには賛同するところですが，従来からある現在の全学同窓会を解体し，その上で新しい同窓会を設立するという理解でよろしいでしょうか。

(小長議長)

そういうことでございます。

(教員 B 男性)

役員会の中に学部同窓会から役員を出すように書いてあるが，現在の会則で，

「各学部等同窓会の会員をもって構成する。」となっており、そのルールのために環境理工学部では、新しく学部同窓会を立ち上げました。そのルールがなくなると学部の同窓会がなくなるという心配がでてきます。

それと会費の集め方ですが、新入生から会費を集めるという話がありましたが、在学生在が会員になることに反対するものではありません。

同窓会は、基本的に卒業生が集まるものと理解しているが、現役の学生から会費を集めることの意味が理解できないことと在在生からの意見を反映するためにどのように意見を出していけるのかお聞かせ願いたい。

(荒木顧問)

皆さんの御意見による具体的なことについては、これから実施の段階で詰めてまいります。新しい全学同窓会が各学部同窓会と共存できる形でやっていくことが結論でございます。

その上で、在在生の意見をどう集めるのかについては、検討させて下さい。

会費につきましては、新入生からだけ取るのではなく、在在生、教職員、卒業生からも取るように考えております。

卒業生の方には、この事業が具体的に進み、この組織は重要なものだと理解をいただければ、会費を出していただけるのではないかとということで、腰を据えて徴収しようと考えております。

全学同窓会が解消して、新しい同窓会を作るということで、既存の同窓会が無くなってしまわないかということにつきましては、そのようなことではなく、むしろ、各学部の同窓会の活動を積極的に展開する必要があります。就職支援のことなど様々な問題がありますので、各学部の同窓会として積極的に事業を考えていただきたい。

(小長議長)

各学部同窓会と全学同窓会は、並立することを念頭に置いており、事業はダブらないように、各学部同窓会を補完するようなものを行っていきたい。

奨学金とか、就職支援というものについては、独自のものがあるかもしれないし、今後詰めていきたいと思いますので、具体的な御意見を賜ればと思います。

(※ 以上で会場からの意見、感想、提言は終了)

(小長議長)

本件につきまして、趣意書の方で具体的に詰めていくことで、皆様の御理解はいただけたものと考えてよろしいでしょうか。(満場拍手)

それでは、御理解をいただいたことを前提に、今後、全学同窓会役員会の名

称を「岡山大学 Alumni 全学同窓会設立準備会」に替えて具体的な詰めをさせていただきたいと思います。そして、各学部同窓会の御了解と各学部同窓会の支部との連絡調整等々遺漏なきを期しまして、全員の御理解と御支援の下に来年の10月の設立に向けて、引き続き御支援をお願いいたします。